

# 頭頸部がん\*治療について、 かかりつけ医に相談してみましょう

\* 頭頸部がんとは、脳と目を除いた首から上の範囲にできるがんのことです。

●口腔がん ●上顎洞(鼻腔・副鼻腔)がん ●咽頭がん ●喉頭がん ●唾液腺がん ●甲状腺がん など

頭頸部がん治療のホウ素中性子捕捉療法(BNCT)について、気になることがありましたら、この相談カードでご相談ください。あなたの治療への手助けとなります。頭頸部がん治療の概要について、裏面で解説しています。

## ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)について、 先生から詳しい話を聞きたいものに○を付けてください。

※診察時にすべての項目について回答できない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

1. 私の頭頸部がんは、BNCTが適していますか？
2. BNCTの治療費は、どの程度かかりますか？
3. BNCTには、どのようなリスクがありますか？
4. BNCTができる施設は、どこですか？
5. BNCTの効果は、どの程度期待できますか？
6. BNCTまでに行うべきことはありますか？
7. BNCTの平均的な治療期間はどのくらいでしょうか？
8. BNCT後の通院について教えてください。  
また、BNCT後にはこういったことが起こりますか？

そのほかに、聞きたいことなどがありましたら、ご自由にご記入ください。

記入後は、医師または医療スタッフにお渡しください。

# 頭頸部がんの治療について

頭頸部がんの治療法には、主に手術、放射線治療、薬物療法(抗がん剤を使った治療)の3つがあります。2020年6月よりホウ素中性子捕捉療法(BNCT)、2021年1月より光免疫療法(アルミノックス治療)に保険適用が認められています。各治療の概要は下記をご確認ください。



## 手術

がん細胞をすべて取り除くことを目指す治療法です。がんが頸部のリンパ節に転移していたり転移の可能性が高い場合は、リンパ節周りも取り除くことがあります。手術をすると、呼吸や食事、会話をする機能に影響が出ることもありますが、がんの早期発見や、切り取った部分を新たに作り直すことで機能や見た目を保つことができるようになってきています。



## 放射線治療

放射線を当てて、がん細胞を死滅させたり、増えるのを抑えたりする治療法です。全身に効果を発揮する薬物療法と併用されることもあります。体への負担が手術より少なく、治療後も臓器の機能や見た目が保たれやすいことから、手術と同じく頭頸部がん治療の中心として用いられています。



## 薬物療法 (抗がん剤などを使った治療)

薬剤を使って、がん細胞が増えるのを抑えたり消滅させることを目指す治療法です。薬が体内に行き渡ることによって、全身に散らばったがんに対しても効果を示します。手術に先立って行われたり、放射線治療の効果を高めるために併用して行われたりもします。



## ホウ素中性子捕捉療法

**B** ホウ素  
Boron  
ボロン

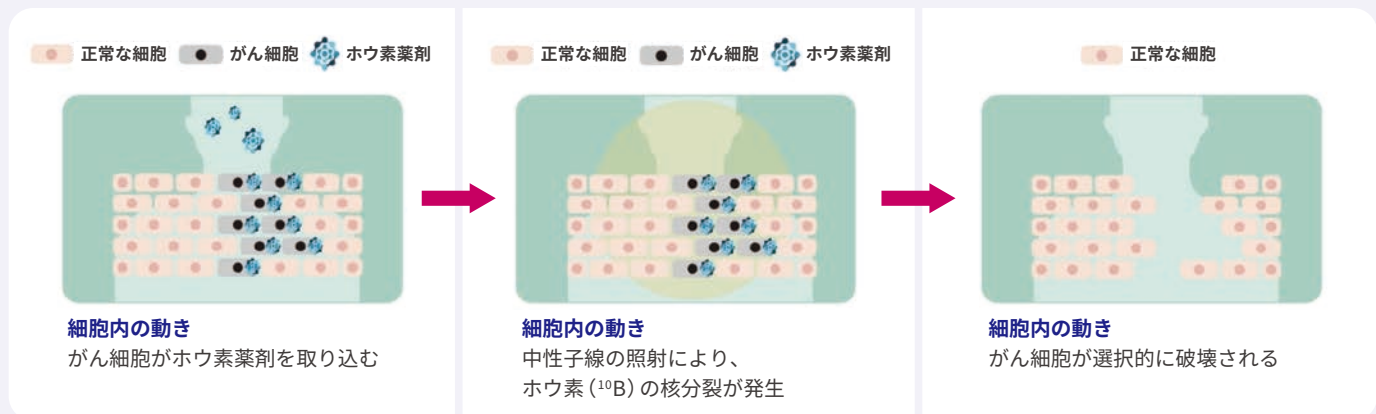
**N** 中性子  
Neutron  
ニュートロン

**C** 捕捉  
Capture  
キャプチャー

**T** 療法  
Therapy  
セラピー

BNCTは頭頸部がんの治療法<sup>†</sup>の一つで、放射線治療の一種です。がんのある部分だけを治療する点はほかの放射線治療と同じですが、BNCTはホウ素を取り込んだ細胞を選択的に破壊します。あらかじめホウ素薬剤を点滴してホウ素をがん細胞に多く取り込ませておき、そこに中性子線を照射することで、ホウ素と中性子が反応して細胞を破壊します。

正常細胞へのダメージを抑えてがん細胞を選択的に破壊することや、原則1回の中性子線照射で治療が完了することなど、より体への負担を減らすことを目指した治療法です。また、すでに放射線治療をされた方にも提供できる治療法です。ただし、BNCTの治療施設が限られていますので、詳しく知りたい方はかかりつけ医にご相談ください。



## 光免疫療法 (アルミノックス治療)

光免疫療法とは、光に反応する薬剤を投与し、薬ががん細胞に十分集まったところでレーザー光を当てて治療する頭頸部がんの治療法<sup>†</sup>です。光免疫療法用の薬剤自体は細胞にダメージを与えず、レーザー光も人体に害は及ぼさず、両方が反応することでがん細胞を選択的に破壊することが特長です。

<sup>†</sup> 治療対象は「切除不能な局所進行または局所再発の頭頸部がん」です。